

「深い学び」を具現する授業デザイン例 社会（小）

学習指導要領における領域・内容

小学校 〔第3学年〕

- (3) ア (ア) 消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。
- イ (ア) 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。

本時のねらい

学校周辺に時間指定の道路標識が設置されている理由を話し合う活動を通して、地域の安全を守る関係機関相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することができる。

授業デザイン例	学習者の視点	授業者の視点
<p>資料1</p>  <p>自転車を使う人と歩く人だけが通ってもよいことを表しているよ。</p> <p>でも、私の知っている標識には「7-8」がついていないのに、学校のまわりの標識にはついている。どうして数字のついた標識があるのかな。</p> <p>④ 学校のまわりには、どうして「7-8」のついた道ろひょうしきがあるのかな？</p>	<p>資料1</p>  <p>(作成者が南相馬市内で撮影)</p>	<p>この標識（資料1）はどんなことを表していますか。</p> <p>まずは、自分の考え（予想）を書いてみましょう。</p>
<p>【その後の話し合い例】</p> <p>「7-8」は時間を表していると聞いたことがあるよ。</p> <p>でも、どうして「7時から8時」だけ自転車を使う人と歩く人だけが通ることができるようにしているの？</p> <p>「資料2」を見ると、朝の時間にその道路を歩く人が多いよ。</p> <p>確かに。朝は車が来ないようにしているのかな。</p> <p>通学時間を考えて、事故を防ぐ役割をしていると思うよ。</p> <p>学校のまわりの地図を見ると、通学路とこの標識がある場所が関係していると思う。標識をつけた人に確認してみたいな。</p>	<p>資料2 「歩行者調べ（平日）」（〇は1人）</p> <p>7時～8時 </p> <p>12時～13時 </p> <p>17時～18時 </p> <p>（●月●日 ○○小学校 ■先生調べ）</p> <p>「まち探検」で作成した地図を基に通学路と標識のある場所を関連付けているまもるさんの考え方、すばらしいですね。では、駐在所の相馬さんに聞いてみましょう。</p> <p>視点M</p>	<p>「まち探検」で作成した地図を基に通学路と標識のある場所を関連付けているまもるさんの考え方、すばらしいですね。では、駐在所の相馬さんに聞いてみましょう。</p>
<p>視点⑩</p> <p>警察官だけが事故を防ぐ仕事をしていると思っていたけど、そうじゃなかったのかあ。なるほど、なるほど！</p> <p>⑤ 車を運転する人や道を歩く人が多い時間の事をふせぐために、かんげいする人たちが協力してひょうしきをつけている。</p> <p>友だちの考えや相馬さんのお話を聞いて、いつも通っている道にもみんなが協力して事をふせぐ工夫があることが分かりました。学校のまわり以外の道ろひょうしきもよく見てみたいと思います。（子どもの「振り返り」より）</p>	<p>私は駐在所の相馬です。道路標識は、公安委員会と連携し、地域の皆さんの願い、事故が起きた場所や数に応じて設置されます。学校のまわりは、時間によって車を通れないようにすることで、みなさんが安全に登校できるようにしています。</p> <p>視点M</p>	<p>みんなで話し合ったことや相馬さんのお話を基に、今日のまとめを書くとどうなりますか？</p> <p>今日の学習をきっかけに、さらに新しいことを調べようとしている。すばらしいですね。</p>

本時における「深い学び」を具現する仕掛けや発問

- 本時は単元の後半部分における1単位時間を想定し、これまでの単元の学習（調べ学習や校外学習等）で獲得した知識・技能を活用した話し合いの場面である。身近な道路標識を比較する活動から子どもの「問い」を引き出し、全体で共有する。これまで単元で学習したことを基にしながら、位置や空間的な広がり（通学路と道路標識の設置場所等）、事象や人々の相互関係（通学時刻と道路標識の内容等）に着目し、それらを関連付ける話し合いを通して、地域の社会的事象の意味を捉え、新たな学びに目を向けることができるようにする。（視点M→視点⑩）